

タブレットを活用した物語文の紹介活動の授業研究 — 物語教材「スイミー」の紹介文を通して —

古 川 元 視

A Study on the Introduction of Stories Using Tablets:
Through the Introduction of the Story “Swimmy”

FURUKAWA Motomi

【要 旨】

本研究は、小学6年生を対象に、タブレットを活用して物語文の紹介文（光村図書第2学年教材「スイミー」を使って）を書くという授業を構想し、実践し、その結果を分析・考察したものである。その際に、昨年度、短期大学生に同様な授業を実践し、結果を考察・分析したものと比較をした。

タブレットを活用する良さは、いつでも、どこでも、何度でも見返すことができるということである。そのためには、物語の紹介の要素や書く手順、粗筋の要素や書く手順をポイントシートなどで配信し、それらやモデルを見ながら紹介文を書くような手立てをすることが有効であった。そうすることで、再度物語の紹介文を書く活動を行う際にも、タブレットから容易に取り出して確認することができる。それは、短期大学生でも同様なことが言えた。ただ、小学生だからこそ、多くのポイントシート（知識シート）を配信する必要がある。また、1枚のワークシート内で知識を与え、それらを基に作業できるように工夫する必要がある。そうすることで、児童一人一人が確実に物語の紹介文を書くことが可能になる。

今回はタブレットで物語の紹介文を書く言語活動を研究したが、今後は、タブレットで説明文の紹介文を書く授業研究を行っていきたい。

【キーワード】

要約、粗筋、紹介文、スイミー、タブレット

1 はじめに

- (1) 読解力及び記述力の課題
- 1) PISA の調査¹⁾が示した課題

○ 2018年調査では、複数の課題文から必要な

情報を探し出したり、それぞれの意図を考えながら、主張や情報の質と信ぴょう性を評価した上で、自分がどう対処するかを説明したりすることが苦手である。

2) 令和6年度全国学力・学習状況調査²⁾が示した課題

○ 自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られた。目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

(2) ICT 活用状況

1) PISA の調査が示した活用状況

○ 日本の各教科の授業での ICT の利用頻度は、OECD 諸国と比較すると低い。

2) 令和6年度全国学力・学習状況調査が示した活用状況

○ ICT 機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校93%。

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面での ICT 機器の活用頻度が高い。その両方に取り組んだ学校グループの児童は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。

○ 課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面で ICT を活用している傾向が見られる。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。

(3) 国語科におけるパソコンを活用した物語の紹介文

国語科において、ICT を活用して物語の紹介文を書くという実践は提案されている。ロイロノート Support³⁾においても「小2国語場面の様子を詳しく想像し、スイミーの気持ちを考えよう。お話を読んで、紹介しよう」、「小3国語組み立てをとらえて、民話をしようかいしよう『三ねんとうげ』」などの授業展開が紹介されている。山埜⁴⁾は、挿絵に合わせて粗筋を書く「組み立てをとらえて、民話をしようかいしよう」、樋口⁵⁾は、紹介カードを作成した「登場人物の変化を中心に読み、物語を紹介しよう」を提案している。

昨年度、筆者は、短期大学生を対象としてパソコンを活用した物語の紹介文を書く⁶⁾という

授業実践を行った。短期大学生は、紹介文や粗筋の要素のポイントシート（知識シート）や知識を発見するワークシート、粗筋や紹介文を書く手順を示されたことが紹介文を書くことに有効であったと答えた。パソコンを活用することで、いつでも、どこでも、何度でもそれらを活用でき、推敲も容易であることも明らかになった。

そこで、今年度は、昨年度の授業実践を踏まえ、対象を小学生とし、一人一人の児童が物語文の紹介文を書くことができる授業を構想し、短期大学生と比較しながら分析を行いたい。

2 調査の目的

- (1) 第6学年の児童が光村図書小学校第2学年物語教材文「スイミー」（以下物語「スイミー」）を使って、物語の紹介文を1時間の授業で書く。（第1回目の紹介文）その後、アンケートを実施し、紹介文とともに分析をする。
- (2) 第6学年の児童がタブレットを活用した「物語『スイミー』の紹介文を書こう」の3時間の授業で紹介文を書く。（第2回目の紹介文）
- (3) 第2回目の紹介文とその後に実施したアンケートを分析し、授業の手立ての有効性を解明する。
- (4) 昨年度、筆者が調査した短期大学生との結果を比較し、傾向を解明する。

3 調査の方法

(1) 調査の対象

大分県内の小学校第6学年児童を対象とする。第1回目の調査数は47名（アンケートは47名）、第2回目の調査数は40名（アンケートは39名）である。（ロイロノート使用）

(2) 倫理的配慮

本研究は、研究の目的、方法、個人情報保護、研究参加の自由、研究不参加での不利益がないこと、研究成果の公表、問い合わせ先につ

いて、所属長に説明し、各保護者にも協力の許可を得た。この調査は別府大学・別府大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号2022-13)

(3) 第1回目の物語「スイミー」の紹介文を書いた後のアンケートの実際

- 1 今まで物語の紹介文を書いたことがありますか。
 - ア ある
 - イ ない
- 2 紹介文を書いて、どうでしたか。
 - ア とても難しかった
 - イ 難しかった
 - ウ 簡単だった
 - エ とても簡単だった
- 3 2で「とても難しかった」「難しかった」と答えた人だけ答えてください。どんなところが難しかったですか。(複数回答可)
 - ア 構成が難しかった(または、しなかった)
 - イ 粗筋には何を書くのか分からなかった
 - ウ 粗筋をどんな順序で書いたらいいのか分からなかった
 - エ 紹介文には何を書けばいいのか分からなかった
 - オ 紹介文を書く手順が分からなかった
 - カ 紹介文が分からなかった
 - キ どんな相手に書くのか分からなかった
 - ク 字数が分からなかった
 - ケ その他

(4) 第2回目の物語「スイミー」の紹介文を書いた後のアンケートの実際

- 1 1回目に書いた物語「スイミー」の紹介文と比べてどうでしたか。
 - ア 1回目と比べてとてもよく書けた
 - イ 1回目と比べて書けた
 - ウ 1回目が書けた
 - エ 1回目より書けなかった

- 2 1で「2回目がとてもよく書けた」「2回目がよく書けた」にチェックした人だけ答えてください。それはなぜですか。(複数回答可)

- ア 紹介文のモデルABCが参考になったから
- イ 紹介文に何を書くのか(字数、粗筋、おすすめの言葉など)が分かったから
- ウ 紹介文を書く手順(構成など)が分かったから
- エ 粗筋に何を書くのか、何を考えないといけないのかが分かったから
- オ 粗筋の書き方(手順)が分かったから
- カ その他

- 3 2で「その他」にチェックをした人は、くわしく書いてください。

- 4 粗筋を書くことは、1回目に書いた紹介文の粗筋と比べてどうでしたか。

- ア とても簡単だった
- イ 簡単だった
- ウ 難しかった
- エ とても難しかった

- 5 4で「とても簡単だった」「簡単だった」という人だけ答えてください。それはなぜですか。

- 6 タブレットを使って紹介文を書きましたが、使ってみてよかったことは何ですか。

- ア 紹介文の構成のモデルを参考にカードに書いたら構成が書けた
- イ 粗筋に書くことがワークシートに書かれていたので、参考にしてカードに書くことができた
- ウ 粗筋の書き方のモデルを参考にし、粗筋が書けるようになった
- エ 紹介文の書き直しが何回もできた
- オ 授業で使ったワークシートを見たい時に見ることができる
- カ その他

- 7 6で「その他」にチェックした人は、くわしく書いてください。

(5) 調査の時期

令和6年7月

4 物語「スイミー」を使って、物語の紹介文を1時間で書く授業の実践（第1回目の紹介文）

(1) 目的

児童の物語の紹介文の実態を把握するために、情報、知識などは与えずに、物語「スイミー」を読み、紹介文を書く。（「スイミー」は児童にとっては既習教材である。）

(2) 児童が書いた第1回目の物語「スイミー」の紹介文

【A児 粗筋のみの紹介文】

広い海に小さな魚たちが楽しく暮らしていて、一匹だけ黒く、泳ぐのが速いスイミーという魚がいた。

ある日マグロがお腹を空かせてきた時仲間がどんどん食べられてスイミーしか残っていなかった。スイミーは悲しかったが虹色のゼリーのようなくらげや水中ブルトラーのようなイセエビを見て元気が戻ってきた。

そんな時岩陰にスイミーそっくりの小さな魚の兄弟たちがいた。スイミーは外に行こうと誘ったが、「ダメだよ。大きな魚に食べられちゃうよ。」と言われ考えた結果、「みんな一緒に泳ぐんだ。大きな魚のふりをして。」と叫び、スイミーは決して離れ離れにならないこと、みんなの持ち場を守る事という決まりをつくった。スイミーは目になろうといいみんな泳ぎ大きな魚を殴打したという物語だ。

【B児 粗筋が一番少ない紹介文】

このお話は、スイミーという一匹の魚が知恵を出して、大きな魚を追い出すお話です。

このお話の一番のポイントは、「みんなと協力する」です。本文中にある、「そうだ。みんな一緒に泳ぐんだ。海で一番大きな魚のふりをして」と言う文からはスイミーの「みんなと協力すれば怖くないよ」と言うような気持ちが伝わってきます。また、比喩を多用して海の中にいる生物が美しく表現されていたり、体言

止めを効果的に用いてその場面の様子を強調したりしていました。このようなたくさんの魅力が詰まった「スイミー」をぜひ読んでみませんか。

(3) 第1回目の物語「スイミー」の紹介文の分析

1) 第1回目の物語「スイミー」の紹介文の字数、粗筋の字数及び紹介文に占める粗筋の割合の結果及び考察

図1のように、書いた紹介文で一番多い字数は150～299字で44.7%であった。短期大学生も同様であった。原稿用紙1枚前後であり、この程度の字数がめやすになるのだろう。

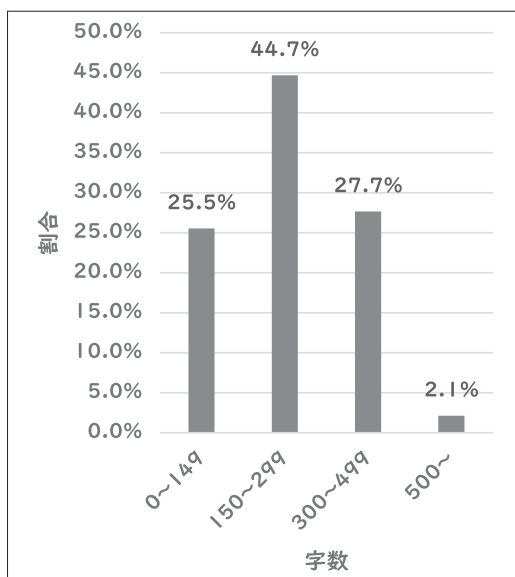


図1 第1回目の物語「スイミー」の紹介文の字数

図2を見ると、粗筋の字数は0～299字が78.7%を占める。粗筋の割合を図3で見ると100%が57.4%と一番多く、80%以上を合計すると、74.4%と7割以上を占める。紹介文のほとんどが粗筋のみである。

短期大学生においても第1回目に行った紹介文における粗筋の割合は、80%以上が54%と半数以上であった。

このように両者とも物語の紹介文を書く要素が、粗筋以外には思いつかないと言えるのではないだろうか。物語の紹介文の要素の知識が身に付いていないことが伺える。

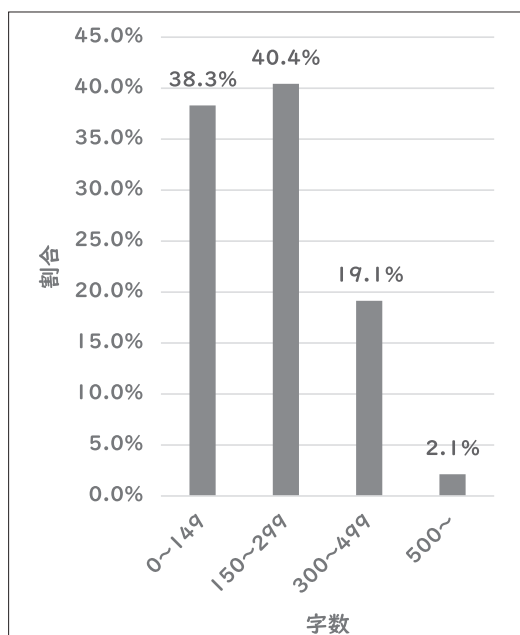


図2 第1回目の物語「スイミー」の紹介文における粗筋の字数

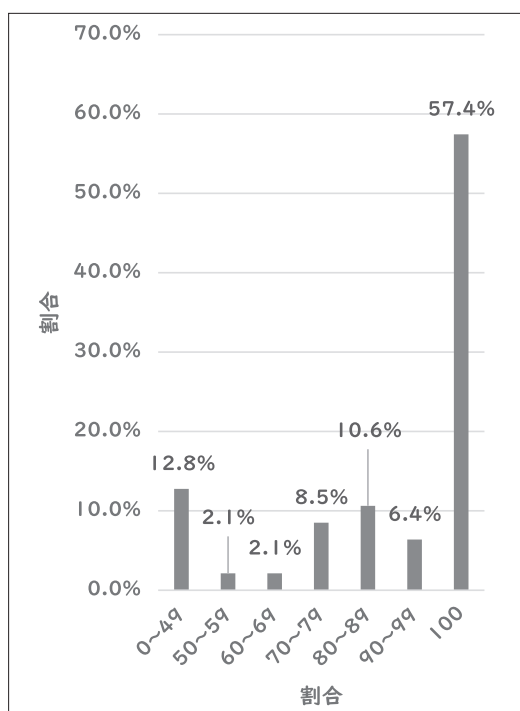


図3 第1回目の物語「スイミー」の紹介文における粗筋の割合

2) 第1回目の物語「スイミー」の紹介文における紹介の要素の結果と考察

それでは、第1回目の紹介文の紹介の要素を見ると表1のとおりである。紹介文に粗筋を全員が書いていた。詳細に見てみると、結末まで書いている児童は68.1%であった。1文で粗筋を書いている児童はわずか10.6%と少なかった。

粗筋の次に多かったのは、主人公の紹介である。物語「スイミー」の冒頭部にスイミーの紹介が書かれているため、その文章を取り上げて書いた児童が多かったためと考える。粗筋と主人公の紹介がほとんどである。短期大学生は小学生と要素の種類は同じだが、「お薦めの言葉」「書き手の感想」を書いた人数が多かった。両者とも紹介の要素の多くは知らないことが課題である。

表1 第1回目の物語「スイミー」の紹介文の要素

紹介の要素	人数
粗筋（結末まで）	32
粗筋（途中まで）	10
粗筋（1文で）	5
主人公の紹介	30
お薦めの言葉	12
テーマ	7
書き手の感想	3
本文からの引用	1
次を期待させる言葉	4
作者・訳者の紹介	2
その他	1

3) 第1回目の物語「スイミー」の紹介文における個人の紹介の要素数

図4を見ると、2個が57.4%と一番多く、半数以上を占める。1つは、粗筋であるので、粗筋以外では1つしかないということである。ここでも、児童が紹介文の要素を明確に分かっていないということが伺える。短期大学生も同様な傾向であった。

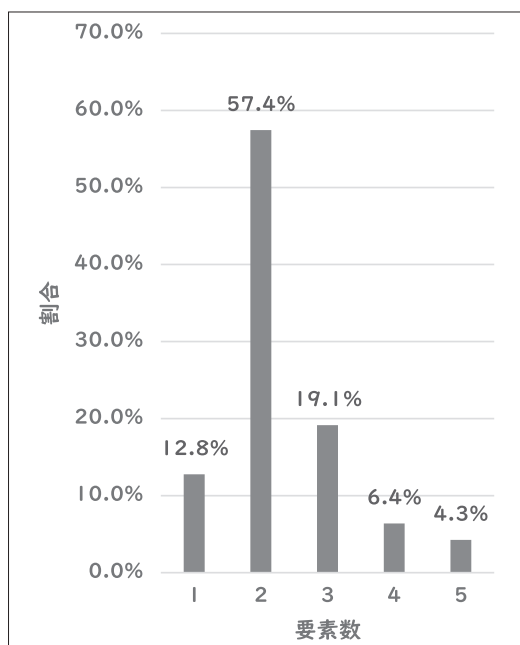


図4 第1回目の物語「スイミー」の紹介文における個人の紹介の要素数

2) 結果と考察

図5を見ると、タブレットを活用して物語の紹介文を書いたことがある児童は93.8%であり、ほとんどの児童は、経験があることがわかった。一方、短期大学生は、小学校在学中にはタブレットが導入されていなかったこともあり、0%であった。

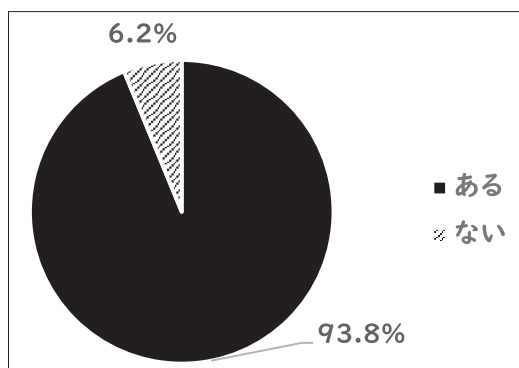


図5 タブレットを活用して書いた物語の紹介文の経験

5 第1回目の物語「スイミー」の紹介文を書いた後のアンケートの結果と分析

(1) 問1の結果と考察

1) 問題の趣旨

児童は、3年前からタブレットを活用している。今まで国語の授業において、物語の紹介文を書いたことがあるのかを問うた。

(2) 問2の結果と考察

1) 問題の趣旨

物語「スイミー」の教材文を読み、紹介文を書いた時の困難さの有無について問うた。

2) 結果と考察

図6のとおり、「とても難しかった」「難しかった」の合計56.3%であり、「簡単だった」「とても簡単だった」の合計が43.7%であった。

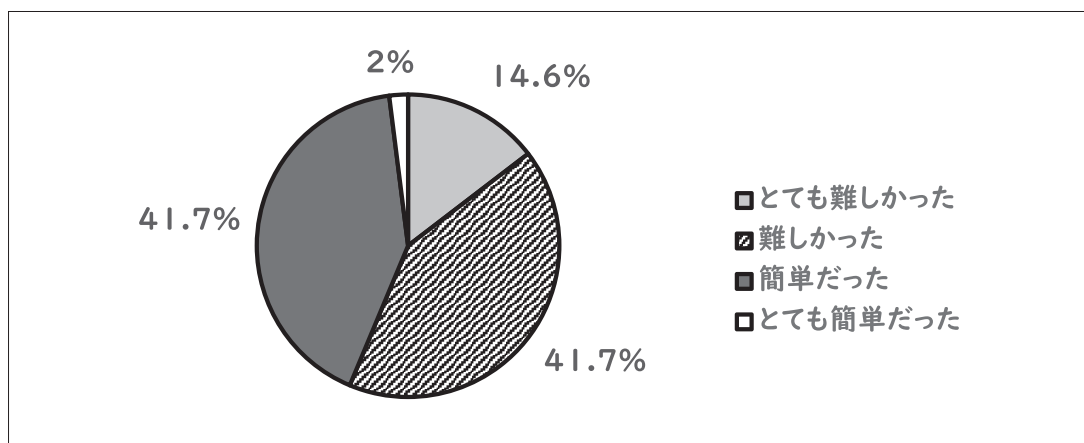


図6 第1回目の物語「スイミー」の紹介文の困難さ

短期大学生では、「とても難しかった」「難しかった」の合計は96%であった。したがって、小学生が、簡単だったという児童が多く、直近で学習したことが要因だったのかもしれない。

(3) 問3の結果と考察

1) 問題の趣旨

問2で「とても難しかった」「難しかった」と答えた児童のみに困難さの要因を尋ねた。

2) 結果と考察

図7を見ると、一番の困難さは「紹介文が分からなかった」で33.3%と一番高く、次に「構成が難しかった（しなかった）」が29.6%、「粗筋には何を書くのか分からなかった」「紹介文を書く手順が分からなかった」が22.2%、「紹介文には何を書けばいいのか分からなかった」が18.5%、「粗筋をどんな順序で書いたらいいのか分からなかった」が14.8%と続く。これは、図2～4、表1とも重なる。

短期大学生も一番の困難さは「構成をしなかった」、次に多かったのは「紹介文の様式が分からなかった」であった。両者とも同じ困難さを抱えていることが分かる。

「紹介文の様式」「紹介文の要素と構成」「粗筋の要素」などは、短期大学生で授業を構想した時と同様で、物語の紹介文を書く時に、押さえておかねばならない基本的な知識や技能である。それらを今回の授業において、押さえる必要がある。

6 第2回目の物語「スイミー」の紹介文を書く（3時間）（第2回目の紹介文）

(1) 紹介文ABCのモデルを分析し、紹介文の要素を理解する。

第1回目の物語「スイミー」の紹介文を書いた直後に実施した第1回目のアンケートの結果、紹介文を書いたことがあるが、紹介文とはどんな文章を書けばいいのか分からなかったという児童が多かった。そこで、「物語のしょうかい文とは」（図8）というポイントシートをロイロノートで配信し、説明をした。児童が紹介文という様式を把握する必要があるからだ。

次に、図9をロイロノートで配信し、紹介文のモデルAを筆者が分析後、モデルBCを児童全員で分析させ、紹介文の要素を発見させるようにした。児童は分析するのが初めてだったため、「物語のしょうかい文に書くこと」の欄からモデルBCの紹介文の要素を選択させた。これも児童が紹介文の要素が分からないという第1回目のアンケートの結果からである。短期大学生も同様なワークシートを配信した。

(2) 物語の粗筋を書く手順やポイントを理解する。

紹介文を書く時には、必ず粗筋を書く必要がある。しかし、第1回目の物語「スイミー」の紹介文を分析した結果、粗筋だけの紹介文が多かったため、図10のように粗筋のモデルABCを児童に配信し、モデルAを参考にしながら

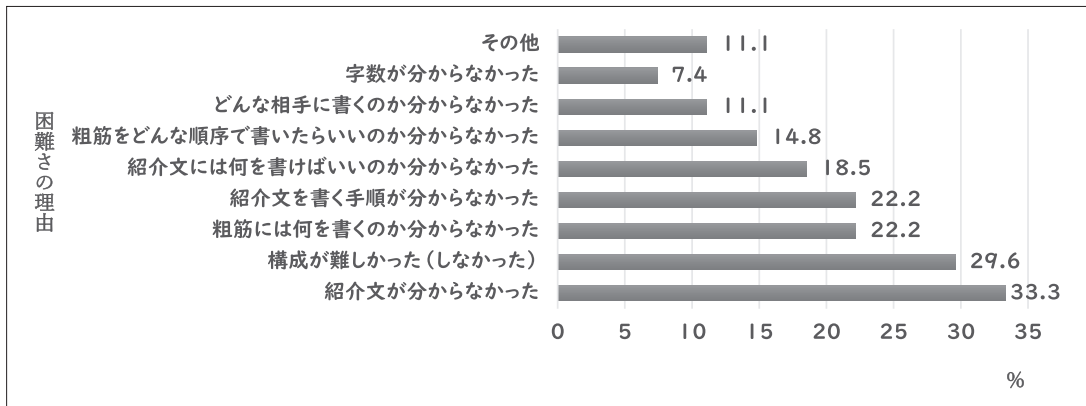


図7 第1回目の物語「スイミー」の紹介文の困難さの理由

モデル BC の分析をさせた。この際にも、「あ
らすじに書くこと」の中から選択させ、併せて
「あらすじを書く時に考えること」も指導を
行なった。図11のワークシートで、紹介の要素、
粗筋の要素、粗筋の構成、紹介の構成ができる
ようにした。短期大学生と違うところは、それ
らをワークシート1枚に収め、児童が知識を得
ながら、手順を踏めるようにした点である。多
くの知識や手順が俯瞰できるようにした。構成
の要素と順序も考えさせた。実際に空欄部分に
テキストを挿入し、それらを参考にしながら、
紹介文を書いた児童もいた。

図11の紹介の要素を再確認するために図12の「紹介に入れるといいね！」や小学生からの要望があった図13の「しょうかい文の始めの文と終わりの文の例」のポイントシートも配信をして参考にするようにした。これは、短期大学生には、配信をしていない。

— 26 —

ワークシート①

月 日 () () の学習を始めて 1 時間目

めあて あらすじを書く時には、どのようなことを考えればよい。

— A・D は、大きなかぶ。のあらすじ。B・C・D の登場人物の名前に A と同じ色をふちぬきまよう。また、B・C・D のあらすじにはななことが書いてありまか、A を参考にしつつの、あらすじを書くこと。から選ん、番号の下にきましよう。あらすじを書く時には、何と考えればいいのかを青のカードに書ましよう。

○ ○ ○ あらすじを書く時に考えること ○ 字数	あらすじに書くこと ○ 主人公の気持ちの変化 ○ 解決までにしたこと ○ 主人公の紹介 ○ 解決 ○ 事件の始まり ○ 困ったこと ○ 失敗 ○ 主人公の家族のようかい ○ 解決方法を考える	あらすじに書いてあること ② ① あらすじに書いてあること ② ① あらすじに書いてあること ③ ② ①	あらすじに書いてあること ③ ② ① あらすじに書いてあること ③ ② ①
--	---	--	---

あらすじに書いてあること

⑤ ④ ③ ② ①

あらすじに書いてあること

⑤ ④ ③ ② ①

あらすじに書いてあること

⑤ ④ ③ ② ①

あらすじに書いてあること

⑤ ④ ③ ② ①

図10 物語の粗筋を分析するワークシート

めあて しようかい文の構成をしよう

「物語のしようかい文を書く」という目標から選んで、モデルを参考に「スミミ」の物語のしようかい文の構成を下の空いているところにロイロのテキスチスを使って書きましよう。構成ができたなら「スミミ」のしようかい文を学んだことをいかにして書きましよう。

目的・・・ぜひ、本を読んで欲しい!

構成のモデル

1 あらすじ
①主人公の紹介
②事件の始まり
③
④
⑤

2 しようかいしようと思っただけ

3 作者の紹介
ネットを調べる

4 すきな言葉
「引用」

5 おすすめの言葉

字数は? []
登場人物は? []
構成は?
結果は?最後まで?途中で?

あらすじに書くこと

○主人公の気持ちの変化
○解決までにしたこと
○主人公の紹介
○解決
○困ったこと
○失敗
○次を期待する終わりの方
○主人公の家族のしようかい
○解決方法を考える

物語のしようかい文に書くこと

○ あらすじ ○ 本のつくりかたの感想 ○ 作者の感想のしようかい ○ 物語の種類(おかし話、ぼうけん物語など) ○ 絵の感想 ○ 物語のすべりるころ ○ 物語が作られた国場所 ○ 読んで欲しい場所 ○ 読んで欲しい時 ○ おすすめの言葉 ○ しようかいしようと思っただけ ○ 事件 ○ テーマ(平和、戦争など) ○ 読んで欲しい読み方 ○ シリーズや他の本のしようかい ○ 次を期待させるような終わり方 ○ 読んで欲しい人 ○ 本ジャンル ○ 本文の引用(登場人物が言った言葉など) ○ 引用する ○ 主人公のしようかい ○ 作者の思い(世界の平和を願って、さんは書いてくださるなど) ○ 本書のしようかい

図11 物語の紹介文の構成ワークシート

紹介に入れるといいね!

物語を紹介するには、どんなことを紹介文に入れるといいのかな。下から選んで紹介文を考えよう!

物語のしょうかい文に書くこと

○あらすじ ○本のつくりかたの感想 ○作者、訳者のしょうかい ○おすすめの言葉

○物語の種類(おかし話、ぼうけん物語 など) ○物語のすぐれているところやとくちよう

○物語が作られた国(場所) ○読んで欲しい場所 ○読んで欲しい時 ○しょうかいしようと思ったわけ ○事件 ○テーマ(平和、戦争 など) ○読んで欲しい読み方

○シリーズや他の本のしょうかい ○本のジャンル ○次を期待させるような終わり方

○読んで欲しい人 ○本文の引用と自分の感想や解説(登場人物が言った言葉など。 「 」で引用する) ○主人公のしょうかい ○画家のしょうかい ○作者の思い(世界の平和を願って～さんは書いたそうです など) ○自分の読書体験(今まで読んだ本との違いなど) ○作者が書いた文章を参考にして、自分で創作する ○書評や解説からの引用やそれと自分の考えとの違い(△△は、～という本で～と述べているが、私は……と思う など) ○さし絵の感想や他の画家のさし絵との違い など)

○作者の伝記との関わり(作者の生き方や考え方が作品に反映されていること など)

まず、あらすじは必ず入れよう。

この中から4つぐらい選ぼう。



図12 紹介に入れる要素

では、実際に第2回目の物語「スイミー」の紹介文をどのように書いたのかを見てみよう。

(4) 児童が書いた第2回目の物語「スイミー」の紹介文

【児童Cの第2回目の物語「スイミー」の紹介文 第6学年へ】

この物語は、スイミーという小さな黒い魚が、群れから離れてしまって、海の中を大冒険し新しい仲間を見つけ、大きな魚に立ち向かっていくという話です。

この物語の優れているところは、感情をととても豊かに大胆に表現しているところです。「こわかった。さびしかった。とても悲しかった。」など、繰り返すことで、感情をより深く表現しています。

僕がこの物語の一番好きなのは、「スイミーは教えた。けっしてはなればなれにならないこと。」で、自分が経験した出来事をもとに、団結を訴えているところです。紹介しようと

物語のしょうかい文 始めの文

引用・「アンガスは、みるもの かぐもの なんでもしたりしました。」
『エルマーのぼうけん』はエルマー3部作の最初の作品であり、作者は～
この物語は、～のお話である。
これは、一人の心優しい少年が～大きな冒険の物語である。
このお話は、小さな勇気ある子どもの旅立ちから始まる。
『本の名前』は、～シリーズの1冊目である。
この絵本は、主人公であるカエル君の日常生活を描いている。
『本の名前』の作者は～。
この絵本は、「 」という問いかけから始まり、～というタイトルになっている。
『本の名前』は子ども頃、だれもが読んだことがあるお話である。
この絵本では、～ということを感じることができ。
『本の名前』は、日本を代表する～の作品である。

物語のしょうかい文 終わりの文

ストーリーが、長年にわたり愛され続けているこの作品の魅力と言える
「いま、生きている」この尊さを深く感じることができるはずだ。
心おどるストーリーが、子どもだけではなく大人にも支持されるこの作品の魅力の一つと言えるのではないだろうか。
対象年齢は、～この作品を通して豊かな想像力と夢が育まれるだろう。
お互いがより楽しめる読み聞かせるのてはないかと考える。
作者名は人気作品である『 』を手がけた絵本作家で、～がとくちようである。
～という一冊である。
訳者の～は、1916年、東京の生まれ。代表作は『 』である。
何年たっても全ての世代にはずれない、新しい年の読みはじめの1冊に最適な作品である。
～、この本が読みこまれる理由ではないだろうか。
自分も～になったつもりで、わくわくできるのではないだろうか。
～ということを知りやすく教えることができるだろう。
やさしいお話はもちろん、美しい絵にも注目して欲しい。
作者名の他の作品もぜひ読んでみたいと感じさせる作品である。
～に気づかされる1冊である。
鮮やかでかつせんないイラストと個性的なキャラクターたちが待つかこさしの世界をぜひ訪れてほしい。
ドキドキの結末をあなたの目で見てもらいたい。
この絵本を読むと、～という思いにさせてくれる作品になっていると感じる。
国内だけではなくフランス語や韓国語でも翻訳されるなど、世界の各地域で親しまれている。
～ということを知ることが出来るような一冊だと考える。

図13 物語のしょうかい文の始めの文と終わりの文の例

思ったわけは、2年生の時に国語で習ったことを思い出したからです。

この物語の作者レオ＝レオニは、オランダ出身で、「あおくんときいろちゃん」「フレデリック」などは、一度は読んだことがあるような有名な作品です。みなさんも、この本にであった時は、レオ＝レオニの感情が表れているところに目を凝らして読んでください。

【児童Dの第2回目の物語「スイミー」の紹介文 第6学年「今、自信がない君へ」】

からすがいいよりも黒い魚スイミーがいました。周りの兄弟は赤かったけれどスイミーだけは違いました。ある日、一匹の大きなマグロがスイミーたちを襲ってきました。逃げられたのはスイミーだけでした。とても悲しくなったスイミーは何かを決心し、いわけににかくれていた兄弟たちと大きな魚にふくしゅうをします。

さて、この後どうなったでしょう。

この物語の絵はとても迫力的です。波の様子

が印象に残っています。この想像力が膨らむ絵を描いた作家はオランダに生まれ、「あおくんときいろちゃん」「フレデリック」などが代表のレオ＝レオニさん。また、レオ＝レオニさんはこの絵をスタンピングという工夫をして大胆に描いています。この絵を見るとみんななぜか元気になれる気がします。「スイミー」は、人はそれぞれ個性があることを伝えている物語です。今、自分に自信がない、みんなと違いつらいと思っているあなたへ。きっと自信がつかます。

【児童Eの物語「スイミー」の第1回目紹介文、第2回目（第6学年対象）紹介文】

〈第1回目の紹介文〉

この物語は協力することの大切さを教えてくれます。この物語のあらすじは、スイミーという他の人と色が違う魚のお話です。スイミーの仲間がマグロに食べられてしまい、スイミーは一人になります。そして、スイミーは、みんなで協力して大きな魚に食べられないようにします。

この物語は、自分より大きいものや強いものはみんなで協力すればだいじょうぶということを見せてくれます。とてもおもしろいのでぜひ読んでみてください。

〈第2回目 第6学年「何かに失敗して落ち込んでいる人へ」〉

スイミーの作者レオ＝レオニはフレデリックなど数多くの有名な絵本を作っている。その絵本は小さい子に限らず大人が見ても面白いものである。

スイミーの仲間は、ある日マグロに食べられてしまう。そして、スイミーは仲間と協力しあい、一匹の大きな魚を作るまでの物語。さて、この後、どうなっただろうか。

スイミーはある日とつぜん仲間がいなくなる。そして、一人でしばらくの間海底をさまよっている。

これは人生でも同じことが言える。ざせつした時は、みんな海底をさまよっている気分になると思う。そこから、スイミーは立ち上がり、協力をする。ここから、僕たちも一人では立ち上がれなくても誰かと協力すれば立ち上がるこ

とができるということをレオ＝レオニは教えたのではないだろうか。いつの間にか感情移入してしまう。スイミーは、僕たちにどのようなことを教えたいのだろうか。人生の山あり、谷ありを、魚を使って書いた物語。

(5) 第2回目の物語「スイミー」の紹介文の分析

1) 第2回目の物語「スイミー」の紹介文の字数、粗筋の字数及び紹介文に占める粗筋の割合の結果と考察

図1と図14を比較すると、明らかに紹介文の字数が増えており、300字以上が85%である。第2回目の紹介文を書く時にも、字数の制限はしなかった。紹介文を書く要素が明らかになったためであると考ええる。

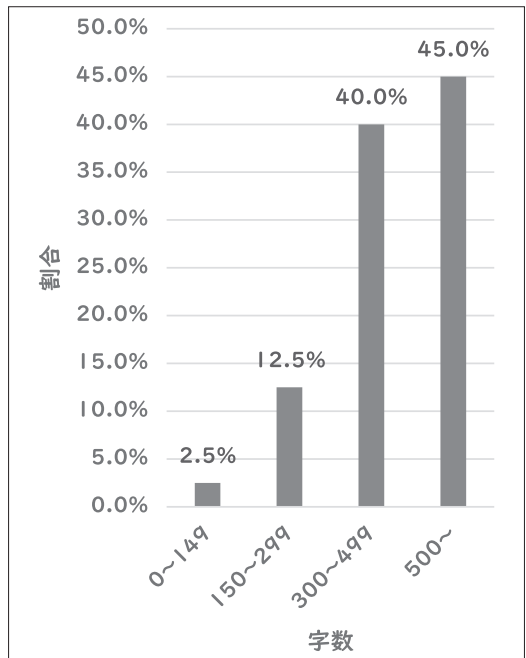


図14 第2回目の物語「スイミー」の紹介文の字数

図15のように紹介文の粗筋の字数は、299字以内が80%で、第1回目の粗筋の字数の割合とほぼ変わらない。しかし、図16を見ると、粗筋の割合は49%以下が67.5%であり、図3と比べると大きく減っていることが分かる。これは、粗筋の書き方や要素が分かったからだと考えられる。

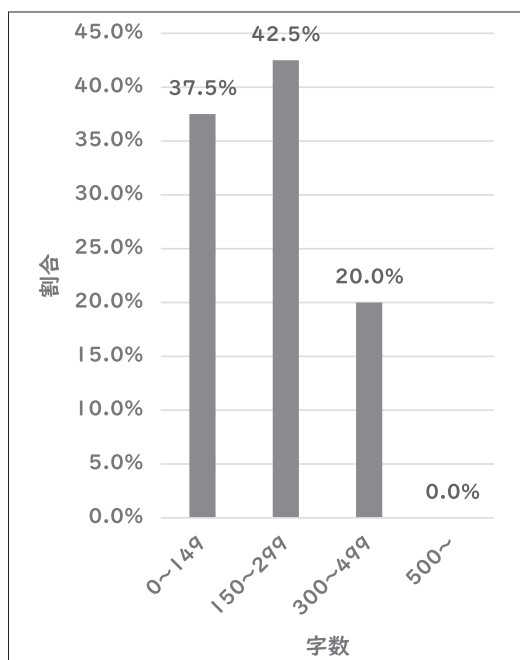


図15 第2回目の物語「スイミー」の紹介文における粗筋の字数

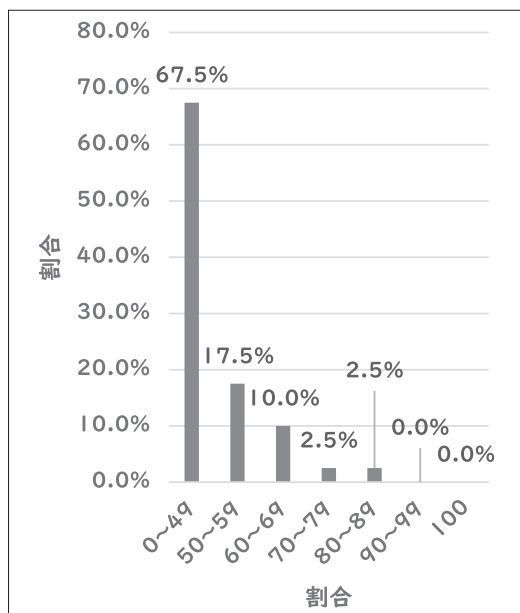


図16 第2回目の物語「スイミー」の紹介文における粗筋の割合

2) 第2回目の物語「スイミー」の紹介文における紹介の要素の結果と分析

紹介文の要素数も表1と比べ表2のとおり、

種類も増えた。また、人数も増えている。

表2 第2回目の物語「スイミー」の紹介文の要素

紹介の要素	人数
粗筋（結末まで）	20
粗筋（途中まで）	17
粗筋（1文で）	5
主人公の紹介	29
お薦めの言葉	28
テーマ	26
書き手の感想	1
本文からの引用	16
次を期待させる言葉	13
作者・訳者の紹介	39
絵の技法	9
作品の紹介	25
お気に入りの言葉	7
その他	23

3) 第2回目の物語「スイミー」の紹介文の個人の要素数

図17のように紹介文の要素数を見ると7個以上が60%である。第1回目では、要素数2個以下が70.2%であった。（図4）紹介文には何を書けばいいのかを理解し、構成をして紹介文を書いた成果だと考える。短期大学生も個人の要

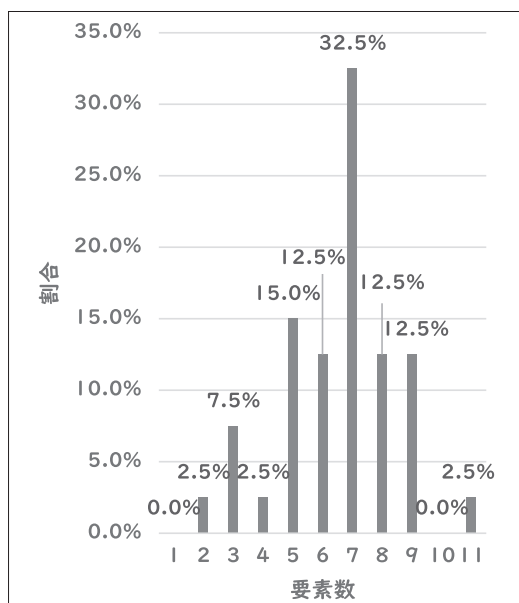


図17 第2回目の物語「スイミー」の紹介文における個人の紹介の要素数

素数7個以上が66%であった。短期大学生も同様なことが言えた。

7 第2回目の物語「スイミー」の紹介文を書いた後のアンケートの結果と分析

(1) 問1の結果と考察

1) 問題の趣旨

指導や指示をせずに書いた第1回目の紹介文と指導後に書いた第2回目の紹介文との比較をすることで、どのような手立てが有効であったのかを知りたかったためである。

2) 結果と考察

第2回目に書いた物語「スイミー」の紹介文が1回目より「よく書けた」「書けた」を合計すると、94.9%であり、短期大学生とはほぼ同じであった。(図18)

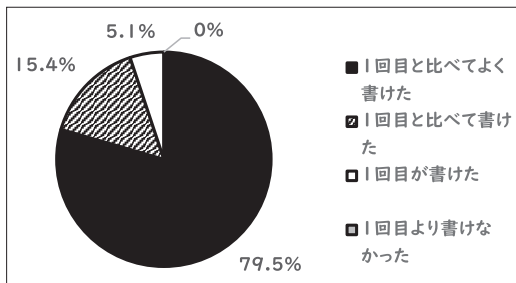


図18 第2回目の物語「スイミー」の紹介文の困難さ

(2) 問2の結果と考察

1) 問題の趣旨

第2回目の物語「スイミー」の紹介文が第1回目と比べ、書けた理由を問うた。

2) 結果と考察

図19から、1番の理由として児童が挙げたのは、「紹介を書く手順（構成など）が分かったから」である。これは、1回目の紹介文を書く時に、児童は構成をせずに書き始めていたからだと考える。構成をしなければという意識が全くなかった。次に多かったのは、「紹介文に何を書くのか(字数、粗筋、おすすめの言葉など)が分かったから」「紹介文のモデルABCが参考になったから」「粗筋に何を書くのか、何を考えないといけないのが分かったから」と続く。紹介文の要素やモデル、粗筋の要素や手順を示したからであると考えられる。短期大学生は紹介文の様式、紹介文の要素が多かった。

(3) 問3の結果と考察

1) 問題の趣旨

粗筋を書くことの困難さを抱えている児童も多かったため、第1回目と第2回目の紹介文の粗筋の困難さを比較したかった。

2) 結果と考察

第2回目の粗筋が、「とても簡単だった」「簡単だった」と答えた児童は64.1%である。(図20) なぜ、「とても簡単だった」「簡単だった」

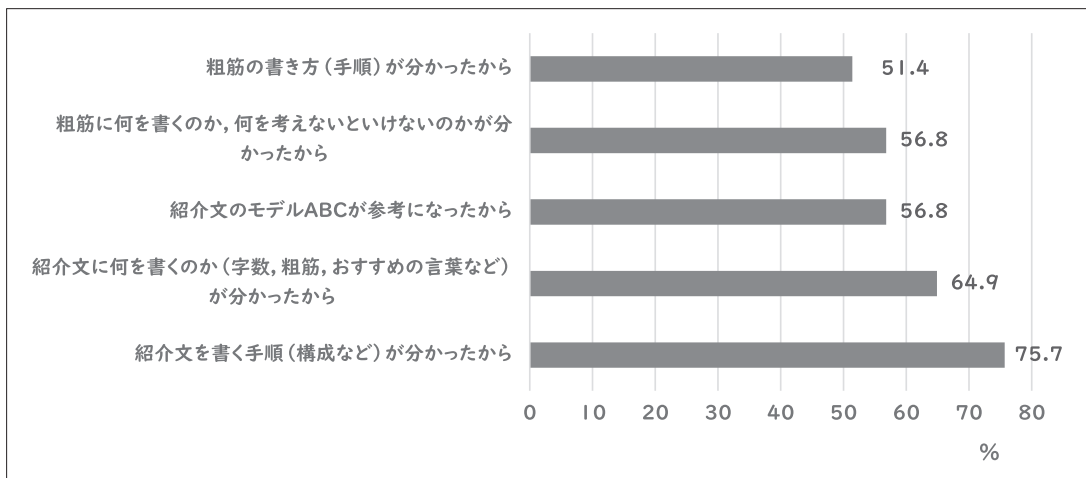


図19 第2回目の物語「スイミー」の紹介文が第1回目より書けた理由

のかを見ると、「粗筋に何を書けばいいのか分かったから」「どうやって粗筋を書けばいいのか分かったから」「粗筋を書くポイントが分かったから」「粗筋の構成の仕方が分かったから」「粗筋のモデルABCを分析したから」という記述が多かった。つまり、粗筋の分析後、粗筋の要素、粗筋の書き方の手順を示したことが理解を深めたと言える。

一方、「難しかった」「とても難しかった」と答えた児童は35.9%と高い数値である。物語の粗筋を書くということが児童にとってはハードルが高い言語活動であると言えよう。引き続き、丁寧に指導を重ねる必要がある。

(4) 問4の結果と考察

1) 問題の趣旨

タブレットを活用して物語「スイミー」の紹介文を書いた利点を問うた。従来は、原稿用紙に書いている場合が多かった。児童はタブレットで紹介文を書くことについてどのように考えているのかを知りたかったからだ。

2) 結果と考察

一番多かったのは、「粗筋に書くことがワークシートに書かれていたの、参考にしてカードに書くことができた」であった。(図21) これは、ワークシートに何を示すのかをいう点で大変参考になる。つまり、児童はポイントシー

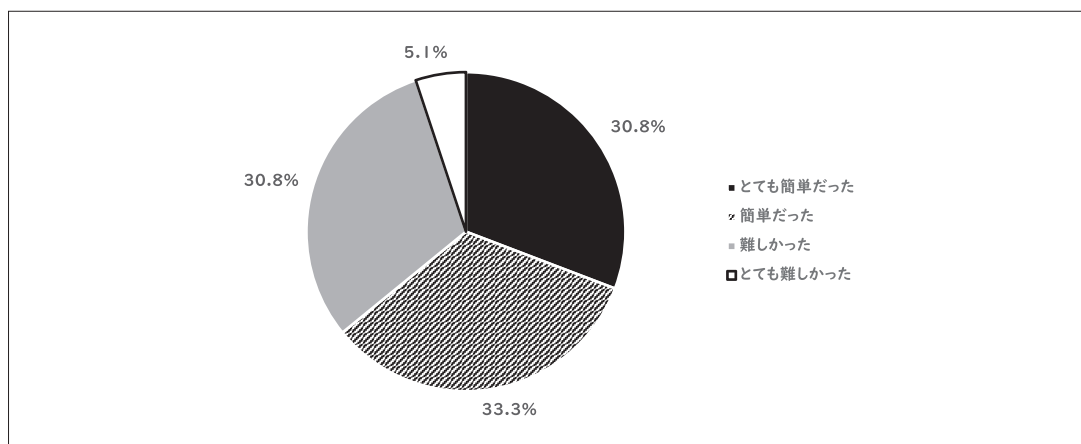


図20 第2回目の物語「スイミー」の粗筋の困難さ

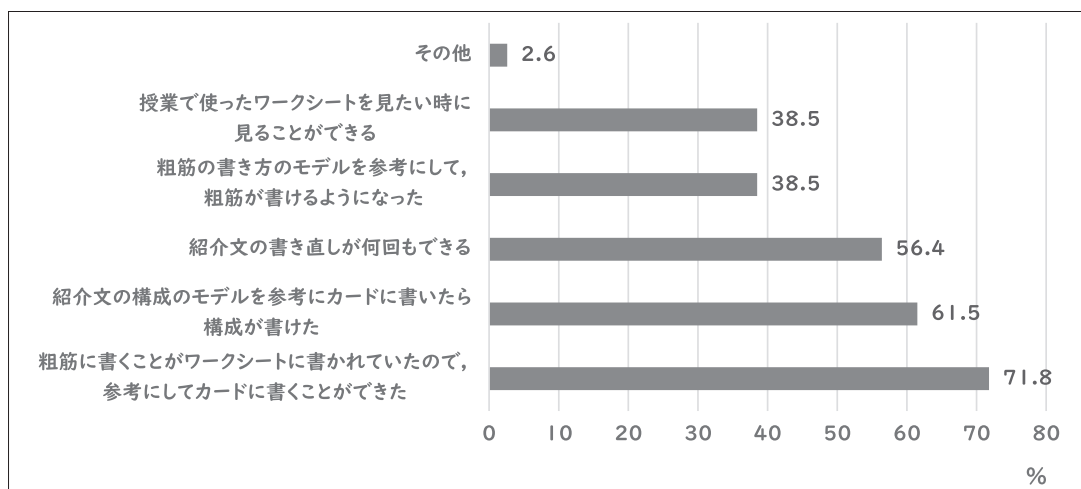


図21 タブレットを活用して紹介文を書いた利点

トで知識を得ながら、言語操作を行うことが便利と考えていることになる。次に多かったのは、「紹介文の構成のモデルを参考にカードに書いたら構成が書けた」であり、これも参考となるものが示されていて、それを見ながら言語操作を行うことである。両者とも、参考となるものが画面上にあることで、言語操作がスムーズになると言っている。一方、短期大学生が一番で挙げていたのは、「資料をいつでも、どこでも、何回も活用できる」であった。活用の利点が若干違っており、興味深い。いずれにしても、今後、タブレットを活用する時のポイントになることである。

8 まとめと今後の展望

タブレットを活用する良さは、いつでも、どこでも、何度でも見返すことができるということである。

そのためには、物語の紹介の要素や書く手順、粗筋の要素や書く手順をポイントシートなどで配信し、それらやモデルを見ながら紹介文を書くような手立てをすることが有効であった。

そうすることで、再度物語の紹介文を書く活動を行う際にも、タブレットから容易に取り出して確認することができる。

それは、短期大学生でも同様なことが言えた。ただ、小学生だからこそ、多くのポイントシート（知識シート）を配信する必要がある。また、1枚のワークシート内で知識を与え、それらを基に作業できるように工夫する必要がある。そうすることで、児童一人一人が確実に物語の紹介文を書くことが可能になる。

今回はタブレットで物語の紹介文を書く言語活動を研究したが、今後は、タブレットで説明文の紹介文を書く授業研究を行っていきたい。

9 引用文献

- 1) OECD 生徒の学習到達度調査 (2022のポイント)
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

- 2) 全国学力・学習状況調査報告書 (令和6年度)
<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24summary.pdf>
- 3) ロイロノート Support
<https://help.loilonote.app/~60b98d82b6df2e0023d9def6>
- 4) 関西国語授業研究会、『365日の全授業 DX 小学校国語』明治図書2022年7月、PP56～57
- 5) 樋口綾香、『自ら学ぶ力』を育てる GIGA スクール時代の学びのデザイン』株式会社東洋館出版社、2022年12月28日、pp98～pp101
- 6) 古川元視、『別府大学短期大学部紀要第43号』「パソコンを活用した物語文の紹介活動の授業研究—紹介文のための要約育成に焦点化して—」2023年3月31日、別府大学短期大学部、pp23～pp37

10 参考文献

- 1) 井上一郎、『国語科教育の基礎・基本 教え方・学び方ポイントシート 読むこと編』、2021年1月、明治図書、pp32～33、pp48～49
- 2) 井上一郎、『小学校国語「汎用的能力」を高める！アクティブ・ラーニングサポートワーク』、2015年12月、明治図書、pp34～35、pp56～57、pp116～117
- 3) 井上一郎編著、古川元視著『アクティブ・ラーニングをサポートする！ 学校図書館活用プロジェクト 掲示ポスター&ポイントシート』、2017年7月、pp112